様式第１号（第１０条関係）

２０２４年度業務実績報告書

提出日 2025 年 1 月 6 日

１．職名・氏名　准教授・普照早苗

２．学位　学位　修士（博士前期課程）、専門分野　看護学、
授与機関　千葉大学大学院看護学研究科、授与年月　平成 12 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 a.「地域・在宅看護学」（2 単位）2 年次後期（新カリ） b.「地域・在宅看護学演習」（2 単位）3 年次前期（新カリ） c.「地域・在宅看護学実習」（2 単位）3 年次後期（新カリ） d.「看護研究方法論」（1 単位）3 年次前期 e.「在宅看護発展セミナー」（1 単位）4 年次前期（今季で最終） f.「緩和ケア論」（1 単位）（※オムニバス形式・今年度担当なし） g.「看護理論」大学院（2 単位）1 年次前期（※今年度開講なし） h.「地域・在宅看護学特論」大学院（4 単位）（※今年度開講なし） i.「地域・在宅看護学演習」大学院（2 単位）（※今年度開講なし） j.「地域・在宅看護学特別研究」大学院（10 単位）（※今年度開講なし）
②内容・ねらい a.地域包括ケアシステムの中で生活する住民、在宅療養者とその家族を対象に、看護・医療・福祉・保健のあらゆる面から生活の質を高めるよう他職種と連携協働しながら看護の役割を果たす際の重要な視点を教授する。学生は本授業で初めて地域・在宅看護に接するため、在宅看護の基本的事柄を中心に、看護の他分野との関連性も意識させることを例年ねらっている。学生の希望もあり、穴あき問題の個人ワーク教材を作成し基礎知識の定着を図る工夫を加えた。 b.「地域・在宅看護学（2 年後期）」で学んだ概説をもとに、地域・在宅看護学領域で必要となる知識や実践的ケア技術をグループワーク、演習等によって修得する。3 年次後期から実施する「在宅看護実習」へつながる思考の基盤づくりをねらう内容としている。新町ハウスを活用しフットケア演習を実施、学生からも在宅のイメージ化が図れたと好評であった。 c.訪問看護事業所において 1 事例を受持ちとし、訪問看護師と同行訪問する中で実際の看護の展開を行う。訪問看護中の看護実践も教員や看護師と相談を重ね、ケアの一部に関して責任を持って実施する機会をもつ。学生が「自立的」に看護職と意見交換できるよう意識して促している。地域包括ケアシステム・地域共生社会を意識し、多職種連携の実際も学ぶ。学生がコロナ感染をした場合も、学習が滞らないように代替教材（動画）を作成し、また ZOOM でオンラインカンファレンス（実習先と結び）実施した。 d.オムニバス授業で展開（12～15 回目の 4 回担当）。質的研究の特徴と倫理的配慮、研究方法と質的研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方について、実際の公表論文を用いて説明した。学生の興味のある質的研究方法を選択させ、その論文を学生自身がクリティークする演習も実施した。 e.「在宅看護発展セミナー」は、地域で自立・自律的に実践する看護師の機能や役割について学ぶ。各自テーマを設定し文献等で学習、実際の在宅看護現場に出向き、ケアマネジメントの視点を含めた療養者とその家族のアセスメント、多職種との連携・協働のあり方を検討する。さらに実践現場の看護職や介護職とのディスカッションを通して、包括的在宅ケアの在り方を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

a.テキストを用いて基本的な事柄を説明しながら、自身訪問看護師であった経験も踏まえてイメージしやすいように具体例をまじえて解説した。また、DVD や画像など視聴覚教材も最新の物を現場の訪問看護ステーションの協力も得て作成、活用した。毎回の講義後、ミニレポートとして感想や疑問点を Google form で記載・提出させ、翌週の講義ではその内容について解説を加え、なるべく早期に疑問点を理解できるようにした。
また、現在、家族のあり方が多様化していることから、最新情報・時事ニュースも交えて講義内で紹介、説明した（虐待問題、こども家庭庁発足等）。具体的事例も想起させながら進行に努めた。また、次年度 3 年次の地域・在宅看護学実習における家族のかかわりにもつながることを意識させたレポート課題を提示し個人ワークを実施した。

b.国家試験出題も意識しながら知識の確認を行なう時間を設けた。演習は、看護実践ケアに即して、新町ハウスを活用し技術演習（フットケア）を行った。既に学生が基礎看護学で習得している看護技術を「在宅で」行う際の工夫や注意事項など初めに解説してから、学生には実際に自宅で実践して「自ら新たに工夫した点、自宅で実施するからこその配慮」などを考えさせる促しをした。

c. 実習中、学生が自立して学ぶことを意識させるため、教員-看護師間の打ち合わせを事前にしっかり行い、現地では学生が看護師と相談し、積極的な意見交換ができるようにオリエンテーションを緻密に行った。実習終了時は、毎日学生にメールにて担当教員に報告させ、学習の進行状況の確認、問題発生時には早期の対応に努めている。さらに、学生の理解力を図る指標として、口頭だけのやり取りだけではなく、記録に学習内容が反映させているかを把握するため、LMS、ZOOM 面談などを活用し実習記録の添削、電話やメールでの看護職らからの評価の聴き取り等、確認を頻回に行った。コロナ陽性となる学生も数人いたことから、学内代替演習（シミュレーション教育、動画視聴、ZOOM カンファレンス）も取り入れ、学習が停滞しないように準備をした。

d. 「看護の質的研究」については、近年、新たな事例研究方法やテキストマイニング分析方法のソフトの普及など、研究方法自体の研究が進んできている。これまでの基本的知識と合わせて、今後看護職となってからも活用できそうな最新の分析手法について講義内容に加えた。具体的には今年度から、KHCoder による分析についても講義内容を追加した。

e.「在宅看護発展セミナー」は、4 年生 1 名が参加した。本セミナーで、地域で行う看護活動を市内の老健施設の複合サービスへ出向き、教員も付き添い見学した。現状現場で実践されている多職種連携の最新情報や課題を捉え、現地看護職・学生・教員が意見交換を実施した。
【ゲストスピーカー1 人（元訪問看護管理者、現老健施設看護統括者・看護師）】

(2)その他の教育活動

①福井県立看護専門学校非常勤講師「基礎看護学方法論Ⅶ　看護と研究」（質的研究 2 コマ担当、2022～現在）

②福井市内の訪問看護ステーション現場へ出向き、現地看護職及び新卒で訪問看護師となった本学の卒業生との交流会開催。合わせて、将来の訪問看護就職説明会を訪問看護事業所と共同して実施した（12 月）。3 年生 2 名が参加。同事業所に新卒訪問看護師として就職した卒業生 1 名について、現地訪問看護ステーション管理者・教育担当者と教員が協力しながら、新人教育（4 年目）を実施継続している。訪問看護技術チェックシート作成中。（2020～現在）
【協力施設：光陽訪問看護ステーション、光陽生協病院（福井市）】

③敦賀市つるが生協訪問看護ステーションはぴなすの管理者・スタッフへのインタビュー調査（昨年度）の結果報告会を実施。現在、新卒 4 年目の新卒訪問看護師への教育支援を共同研究として継続している。（2023～現在）【協力施設：つるが生協訪問看護ステーション】

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】
③その他論文（査読なし） 【0 本】
④学会発表等 【0 件】
⑤その他の公表実績 ・R2～R4 に取り組んだ FAA/未来協働プラットフォームふくい推進事業補助金研究「新卒訪問看護師養成に向けて訪問看護事業所-大学との共同による教育体制の整備」成果報告書 3 件をリサーチマップに一般公開した。（既に、福井県内訪問看護事業所には各年の報告書を配布済み） 【3 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ・科研「ライフストーリーの語りを生かした入退院支援の実践者育成モデルの開発（筆頭者・藤澤まこと）」普照早苗（共同研究者。他 3 名、2023～現在）
(3)特許等取得
(4)学会活動等
・公益社団法人日本看護協会、日本看護学会学術集会・抄録選考委員（2021～現在）

５．地域・社会貢献活動

①公益社団法人日本看護協会　日本看護学会学術集会・抄録選考委員（2021～現在）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
①ハラスメント委員会委員（2020～現在） ②カリキュラム委員会委員（国家試験対策担当 2021～現在） ③SIM・ICT 推進ワーキンググループリーダー（2020～現在） ④看護学科地域・在宅看護領域責任者（2014～現在） ⑤FD 部会員（2023～現在）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
岐阜県立看護大学大学院看護学研究科・博士後期課程入学（2022 年 4 月 1 日～現在、博士課程 3 年。2025 年 3 月修了見込。）